

2011年4月19日

北海道知事 高橋はるみ 様

(社)北海道自然保護協会 会長 佐藤 謙
平取ダム建設問題協議会 代表 松井和男
自然林再生ネットワーク 代表 前田菜穂子
十勝自然保護協会 共同代表 安藤御史・佐藤与志松・松田まゆみ
北海道自然保護連合 代表 寺島一男
苫小牧の自然を守る会 代表 館崎やよい
ユウバリコザクラの会 代表 藤井純一
イテキ・ウエンダム・シサムの会 代表 佐々木義治
胆振日高高校退職教職員の会 代表 高橋 守

厚幌ダムの検証のやり直しを求める要望書

新聞報道によれば、4月14日開催の第3回厚幌ダム建設事業代表者会議（以下、代表者会議）は、厚幌ダム建設が最善と正式に結論づけたとされています。私たちは、2月15日付けの貴職への要望書において、代表者会議の委員はすべてダム建設推進者のため、第1回の代表者会議について、初めからダム案以外を検討する余地がない運営であったと批判しました。また、2月15日付けの要望書においては、貴職に対して、利水における厚真ダムと厚幌ダムの関係、過去の洪水被害時の資料および深水管理のために必要とする水量について明らかにするよう求めました。私たちの要望書に対して、北海道から過去の洪水時の最大流量は不明ということだけが回答されましたが、それ以外については回答がありませんでした。

その後、北海道は2月24日から3月25日までパブリックコメントを求めました。4月14日に開催された第3回代表者会議の議題は「パブリックコメント等の意見報告、厚幌ダムの総合的な評価等」とされていますが、4月17日現在、第3回代表者会議ではこの議題に関する資料は何も示されていませんので、この会議でパブリックコメントについて検討されたかどうかは不明です。しかし、パブリックコメントが行われた場合には、まずそれに対する検討主体である北海道からの回答を示して、それを公開し、北海道の回答に対する再意見を求めて、その上で厚幌ダム建設についての結論を出すのが、パブリックコメントの意義ではないでしょうか。

厚幌ダムは、総額360億円、そのうち北海道負担が160億円という多額を道財政から支出するものなのに、今回、それに見合った検証作業が行われたとはとうてい考えられません。

ダム建設の必要性があるのかどうかは、ダム建設に批判的な意見を聞いて、それに対する反論などを通じて初めて明らかになるものですが、今回の代表者会議ではそのような意見が出される機会はなく、道民は厚幌ダムが必要かどうか、まったく理解できなかったのではないのでしょうか。

そこで、私たちは、以下の3点の要望を提出します。

1. 代表者会議は、ダム建設に批判的な意見を聞く場を公開で開催すること。
2. パブリックコメントに対する北海道の回答を公開して、北海道の回答に対する再意見を求めること。
3. これらの条件を充たしていない代表者会議をやり直すこと。

私たちの要望について、ご回答は、5月16日までに事務局を担当している北海道自然保護協会（〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目、加森ビル6F、Tel：011-251-5465. FAX：011-211-8465）宛に、文書によっていただけますよう、宜しくお願いいたします。